若くして特攻で亡くなられた隊員を慰霊しました！

隊友会東播支部　池田副支部長他１名は１０月４日（日）１３時から行われた第２８回（令和８年度）鶉野平和祈念祭に参加しました。

当日は本慰霊祭を開始されて以降初めての雨天行事となりました。気温も下がっており、かなり肌寒さを感じる行事でしたが、参加された皆様は心から特攻で亡くなられた隊員の慰霊をされておられることを肌で感じることができる行事でした。

行事最初に海軍旗掲揚を行い、次いで主催者挨拶で一般社団法人　鶉野平和祈念の碑苑保存会の深田真史代表理事から挨拶が行われました。

挨拶では平和を願う気持ちの表れを言葉に変えて表現して頂き、今後も変わることなくこの行事を続けていく意思を伝えられました。しかし、その中で「昨夏にとある県立高校の教員が『保存会は戦争を鼓舞している』との記述の他に保存会が維持・管理している慰霊碑に対してあたかも問題があるような記事を確認。保存会として言われなき誹謗中傷に対し当該教員に訂正するよう直接行ったところ、「高校生がインタビューしたものをそのまま書いているだけ」と逃げ、挙句の果てには「何が悪い」と声を

荒げ。逆ギレ・開き直り。その出版物は学校の活動をまとめている内容であることから、高校の校長にも抗議したが、「訂正は出版社と相談してください。」と非常識な返答。県公務員による県民活動への嫌がらせを受けた」と説明されました。

池田副支部長による献花



細貝事務局長による献花



一般社団法人　鶉野平和祈念の碑苑保存会 代表理事
深田 真史 様による　主催者挨拶



挨拶の中で、このようなお話しをしなければならない代表理事の気持ち・歯がゆさがにじみ出ていることが参加された皆様に伝わっていました。保存会の目的は、今後２度と戦争という過ちを繰り返さない。そのために若くして尊い命を犠牲にして戦った方々、そのご遺族のお気持ちにも寄り添って、決して忘れてはならないという尊い考え方を否定する活動・行為に対し言葉にできない寂しさを感じました。また、毎年隊友会東播支部が

支援している平和祈念の碑跡地の草刈り等の作業に対するお礼も挨拶の中で述べていただきました。

その後、毎年行われている行事として、兵庫県立小野高等学校放送部新保さん、三村さんによる「神風特別攻撃隊　白鷺隊（はくろたい）隊員」の遺書を朗読、軍歌「暁に祈る」「若鷲の歌」を姫路隊友会会員６名が奉唱、軍歌「海行かば」を参加者全員で斉唱しました。

兵庫県立小野高等学校放送部　新保さん、三村さんによる
「神風特別攻撃隊　白鷺隊（はくろたい）隊員」の遺書朗読



遺族・関係者代表「川西航空機テストパイロット　乙訓　輪助」様
ご子息　乙訓　昭法　様　代表挨拶



最後には、遺族・関係者代表挨拶において、「川西航空機テストパイロット　乙訓　輪助」様ご子息　乙訓　昭法　様がこの鶉野後において、紫電・紫電改・水上機等のテスト行い、何人もの若いパイロットを送り出したことをお話しされました。

あいにくの雨ではありましたが、最後まで心を打たれる行事に参加でき有意義であったことと生きて帰りたかったであろう若き隊員の気持ちを察して、もっともっと一生懸命生きていこうという気持ちを強く持つことが出来ました。

事務局長　細貝　寛徳